

公民館だより なかがわ

第505号

令和6年11月29日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

【一般講座】 「フラワーアレンジメント教室」

日時：12月24日（火）
10:00～12:00頃
(お正月飾り)

場所：中川地区公民館 集会室

講師：つかさ花店さん

持ち物：花切はさみ、持ち帰り用袋、飲み物

※昨年参加した方は、花器をお持ち下さい。ない方は
別途購入(500円)となりますので、
申込の際にお伝え下さい。

材料費：2,000円

対象：中川地区民

定員：先着15名程度 (※昨年の作品)

締切日：12月9日（月）

※詳細は、地区回覧チラシをご覧ください。

※昨年の花器



参加者募集

「しめ飾り作り」



日時：12月21日（土）
10:00～12:00頃

場所：中川地区公民館 集会室

持ち物：飲み物、内履き、ハサミ、定規
鉛筆、持ち帰り用袋

参加料：無料

対象：中川地区民

締切日：12月13日（金）

◎わんぱく広場と同時に開催いたします

※詳細は、小学校配布チラシ、
地区回覧チラシをご覧ください。

出前スポーツ教室

定員：各15名程度 場所：中川地区公民館 集会室

日 時	種 目	持ちもの
1月21日（火）10時～11時	ストレッチヨガ	飲み物、屋内シューズ ※ヨガマットかバスタオル
2月21日（金）10時～11時	ミニフットゴルフ	飲み物、屋内シューズ
3月21日（金）10時～11時	太極舞	飲み物、屋内シューズ ※ヨガマットかバスタオル

※詳細は、市報に入る
チラシをご覧ください。
※定員になり次第、
受付終了となります。

お申込み・お問合せ：中川地区公民館（☎679-2501）

12月・1月 行事予定



12/3(火) 三者会、会長会
12/6(金) 食改「防災セミナー」、調理室大掃除
12/11(水) 公民館大掃除
中川地区表彰委員会
12/13(金) パソコンクラブ
12/17(火) そば打ち教室
12/21(土) しめ飾り作り
12/24(火) 一般講座「フラワーアレンジメント」
12/29(日) ～1/3(金) 公民館休館

1/6(月) 仕事始め
市民新年祝賀会
1/7(火) 会長会・公民館運営協議会
1/8(水) 市報、館報
中川地区新年祝賀会
1/10(金) 粹いき俱樂部（職員不在時間あり）
福祉村だより編集委員会
1/14(火) そば打ち教室
1/17(金) パソコンクラブ
1/21(火) 出前スポーツ教室「ストレッチヨガ」
1/24(金) 冬に遊ぶ会
1/28(火) 一般講座「館外講座」予定 ※1月募集
1/31(金) 市報、館報

詩吟教室（火曜日） 12/10、17、24

ラージピンポン愛好会 12/5、12、19、26
（木曜日）

スポーツ麻雀愛好会 12/5、12、19、26
（木曜日）

中川福祉村文化産業まつり 開催！

11月2日(土)・3日(日)の2日間、第40回「中川福祉村文化産業まつり」が開催され、残念ながら初日は雨になってしまいましたが、多くの来場者で賑わいました。開会式には市長はじめ、来賓の方々にご参加いただき、平成上山藩小銃大砲隊の祝砲を合図にテープカットが行われました。公民館前では毎年すぐに完売してしまう金谷の野菜販売、中川農業者等トレーニングセンターの中では、JA 上山北支店さんのご協力で丹精込めて育てられた農産物品評会・即売会や、中川地区民、各施設、中川小学校からの素敵な作品がたくさん展示され、皆さん足を止めてじっくりと見ていました。また恒例の「大抽選会」も、喜んでもらえるような賞品を取り揃え、大いに盛り上がることができましたし、地区民の方々からご提供いただいた品物でのバザーコーナーも大好評となりました。今年は5年ぶりに、中川地区食生活改善推進協議会の皆さんによる「豚汁のふるまい」も復活し、たくさんの方に食べていただきました。準備から後片付けまでお手伝いいただいた関係者の皆様、作品出展・バザー品を提供していただいた地区の皆様、そしてご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。



【一般講座】「フラワーアレンジメント教室」



11月1日(金)、一般講座「フラワーアレンジメント教室」が開催されました。「中川福祉村文化産業まつり」に展示する作品ということで、講師であるつかさ花店さんより、いつもよりもたくさんの種類のお花と器を準備していただきました。先生に手ほどきを受けながら、それぞれ個性的な器にバランスを考えながらお花を飾っていき、とっても素敵な作品が出来上がりました。展示の当日も先生よりきれいに飾り付けて並べていただき、さらに素敵な展示となりました。



粋いき倶楽部



11月8日(金)、第7回粋いき倶楽部「映画鑑賞と施設見学」が開催され、午前中はフォーラム山形で『アイミタガイ』(黒木華主演)を鑑賞しました。親友を失った女性を中心に思いがけない出会いが連鎖して、誰かを想ったことが、巡り巡って見知らぬ誰かをも救い、誰の胸にも眠っている助け合いの心を呼び起こし、何気ない毎日を優しく照らしていくあたたかな物語で、会員さんから「よかったあ」「感動した～」との声が聞こえてきました。午後からは、上山市にある「東和薬品(株)」で、日々の生活において欠かせなくなっている「薬」の製造工程を、詳しい説明を受けながらじっくりと見学しました。質問にも丁寧に答えていただき、薬を飲む側に立って飲みやすい薬を製造していること、最善の注意を払って安全に製造していることなど、たくさんのことを知ることができ、映画とともに充実した一日となりました。



中川地区会長会合同研修会

11月12日(火)～13日(水)、中川地区会長会合同研修会が行われ、総勢14名の参加で会津若松・いわき方面へ行ってきました。初日は会津若松市の鶴ヶ城や大内宿、塔のへつりを見学しました。大内宿は江戸時代に整備された宿場町で、当時の建物を保存整備してきたことにより、当時の雰囲気や今に伝える場所として国内外から多くの観光客が来訪し、地域の活性化につながっている状況を視察しました。当日も天候に恵まれたとはいえ、平日にも関わらず多くの外国人などの観光客が訪れていました。2日目は、いわき市に移動し、白水阿弥陀堂やいわき石炭・化石館などを見学しました。石炭・化石館では、様々な化石の展示や常磐炭田の繁栄により発展したいわき市の炭鉱の歴史などを視察しました。炭鉱の始まりとなる安政の時代には、石炭の採掘が家族単位で手掘りにより行われていたことを知り、驚きを感じました。11月中旬にも関わらず、2日間とも暖かな晴天の下に無事研修会を終了することができました。



「主事部・体育部」反省検討会



11月16日(土)、「主事部・体育部反省検討会」を月岡ホテルで開催し、中川福祉村の事業である「中川福祉村大運動会」「中川福祉村文化産業まつり」の反省点や改善点、来年以降の事業のやり方など話し合いが行われ、多くの意見が出されました。その後は、労をねぎらい、お疲れ様会となりました。運動会と文化産業まつりは1年の中でも大きな事業となります。主事部・体育部の皆さんあっての開催となりますので、また、来年も盛り上げられるようご協力の程よろしくお願い申し上げます。

11月22日(金)、クッキングインストラクターの栗野 静枝さんより来ていただき、「料理教室～簡単！美味しい！ごま豆腐作り」を開催しました。「ごま豆腐」がとっても美味しくできたのはもちろんですが、作りながら、毎日の料理が楽になる知恵や、料理の基本などもユーモアたっぷりでお話していただき、あっという間の楽しい2時間となりました♪

【単発講座】「料理教室」



「ウォーキング教室」反省会



11月22日(金)、テラポイントガイドの高瀬さんをお迎えし、ウォーキング教室の反省会が開催されました。いろいろな所に行けたことで、その季節のたくさんの植物をみたり、新たな発見をしたり、楽しんでいただけたようです。来年度も皆さんの意見をもとに計画を立て、一緒に健康増進を目指して、楽しくウォーキングが出来ればいいなと思います。高瀬さん、会員の皆さん、ありがとうございました！！



たくさんのなめこが生えました！

中川小学校とのふるさと学習事業として、毎年5月に中川小学校の3年生が「里山ウォーキングときのこ作り体験教室」を行っています。昨年5月に、現在の4年生が植菌した木（なめこの植菌をしてから生えるまで1年以上かかるため。）にたくさんのなめこが生えたので、なめこがどうやって生えているかを観察してもらうため、館長より小学校へ運んでもらいました！



おらほの中川へ地域の話題シリーズ 第百九十四弾

「昭和考、問わず語り（その46）」

開拓事業の先駆者であった角田一郎の構想は、その後の日本の大陸移民計画の骨子になり、その構想は、次のように実現された。
本稿では、満州国への移民の開始について記述します。

「移民構想実現の背景」

昭和六年九月十八日、関東軍の謀略によって「満州事変」が勃発、以後関東軍による州東部への進攻が続けられ、六年十一月中旬にはチチハルを、翌七年一月には錦州、同年二月にハルビンを占領し、満州の東三省の省都を占領した。

一方国連は、「リットン調査団」を派遣、六年十月には「満州事変は侵略」「満州国は傀儡である」との報告書を公表した。またアメリカは、「満州事変」を九力国条約違反として日本に抗議、さらに翌七年一月には、不戦条約違反を理由に、スチムソン國務長官（外相に相当）が、「満州事変及びそれによって生じた状況を一切認めない」という方針を表明した。

こうした厳しい国際環境の中で、関東軍は、昭和七年三月一日、前清国最後の皇帝・愛新覺羅溥儀を執政とする満州国を建国したのである。

この移民構想は、そうした背景の下で動き出したものである。

「角田の死去、加藤が構想を継承」

昭和七年一月二日から角田一郎・加藤完治の二人は、荒木陸相と前朝鮮総督・齋藤実を訪問し、実施を要請、次いで農林次官・東京帝大農学部教授・那須皓博士を訪ね、賛意を得るに至ったのであった。

角田は、一月五日に帰郷したが、持病の胃潰瘍が悪化し、翌八年三月二十五日逝去（享年五十二歳）したことから、角田の決意は、加藤によって継承された。

「構想の実現へ」

昭和七年二月十七日、関東軍の主唱により、奉天で「満州新国家建設会議」が催され、ここではじめて農業移民問題が取り上げられた。大勢は時

期尚早論で占められたが、東京帝大・那須皓教授らが即時断行を主張し、また関東軍参謀・板垣征四郎、石原莞爾中佐が支持し、受け入れのための調査研究をすることが決定された。

これに呼応した加藤らは、角田の案を骨子とする「満蒙植民事業計画書」を作成し、拓務省に要求、しかし閣議で否決されたため、その後満州に渡り、関東軍参謀・石原莞爾の紹介を得て北満方面で集団移民を研究していた特務機関員・東宮鉄男と会い、試験的に五百戸を入植させる案を作った。その後関東軍から同案の了承を得て帰国、再度拓務省に働きかけ、諸経費を国会に提案し可決を得たのである。

また加藤は、こうした働きかけに先立ち、関東軍に懇願し、奉天郊外の北大営（元張学良政権の軍練兵場）に約百町歩の土地を借用し、一日本国民学校分校を設置し、県内から山形自治講習所卒業生等の希望者を募り、昭和七年五月には、約五十人を送出し農業入植の訓練を実施していた。

「満州移民開始」

加藤らは、試験移民として、軍隊経験のある在郷軍人で東北地方など寒冷地出身者五百人を募集し、昭和七年九月山形県大高根修養場等で訓練を行い、その修了者を正式の拓務省移民として採用し、七年十月神戸港より出航させた。この移民に山形県から三十九名が参加した。

更にこの移民には、北大営の日本国民学校分校より五十名が加わり、入植先は、松花江下流の河港・佳木斯（チャムス）から西に約五十キロ奥地の三江省樺川県永豊鎮で、完達山脈の一部をなす高原地帯の無任地約六百町歩と定められ、十月十五日より佳木斯に屯営した。しかし現地は治安が悪く入植が困難だったため、翌八年二月に先遣隊が入植した。

これを拓務省は、「満州農業試験移民」といい、一般には「第一次集団武装移民」と呼ばれ、現地では、「屯墾軍第一大隊」といったが、満

甲石地区 高橋 正之

州国政府は、「特別農業移民団」「日本在郷軍人移民団」と呼称するなど、行政的には定まった名称さえなかった。

昭和九年度より入植当時の軍隊組織を解体し、農業移民本来の経済的基礎建設に入り、団の名称も日本本来の「村」制度に改め、昭和十年までに家族招致をして団の名称も「弥栄村」と決定。営農、経済活動については、日本産業組合、農会を規範として「弥栄村共働組合」を組織して本格的な経営に入っただのである。（『上山市史』下巻・現代編より）。写真は、移民者の満州国での暮らしの様子。「満州帝国の興亡」新人物往来社刊より）

※ 当時の上山市の出来事（上山市史年表より）

・昭和九年一月十三日 山形県は「二三男会」を各町村に設置するよう通知する。

（昭和十年二月 美濃部達吉の天皇機関説が問題化する。）

・昭和十年十月十八日～二十日 競馬倶楽部は一周八百m、幅員十六mのコースを整備して、地方競馬規則による第一回競馬を開催する。

（昭和十年 東北凶作救済地の娘の身売りが問題化する。）

（次回は、移民の続編、南村山郡の分郷について記述する予定です。）

